

「外頼み」の地域DXから、 地域の人が生み出す「内発型」へ。

＼ AI人材育成を軸とした、持続可能な地域DXモデル 〵

教育 → 実践 → 事業化 の循環を、地域住民の手で。

「担い手がいない」課題を、「原石がある」資産の視点へ転換します。

VIEWPOINT | 視点の転換

【従来の語り（外来型）】

- ✕ 人がいない / 担い手が足りない
- ✕ DXを進めたくても推進人材がいない
- ✕ 企業誘致をしたくても人材基盤がない

➔ 課題を外から補う発想

【私たちの語り（内発型）】

- ✓ どの地域にも、まだ磨かれていない「原石＝人材」がある
(高校生・大学生・社会人・主婦層など)

- ✓ 原石を磨くのは地域の人自身

➔ 地域が主役の資産思考



MODEL | 循環する地域DXモデル



「学んで終わりではなく、町で使い、町で稼ぐまでを一体設計。
企業誘致や拠点化はその「結果」として起きます。



VALUE | 町にとっての価値（地方創生KPIに直結）

1



人材定着

地元で学び・働ける
選択肢で若者の
定着率UP

2



地域経済循環

町で稼ぎ、所得と
消費が地域内に
留まる

3



生産性向上

観光・農業・行政
などのDX実装を
進める

4



交付金・KPI対応

補助金活用の根拠・
成果指標に直結

STEP 01 & 02 | 誰をどう育て、何に活かすか

STEP 01

育てる



対象

高校生、大学生、社会人、
主婦層（経験不問）



特徴

AnthropicのClaudeと
連携するAIコーチが伴走。
挫折しない実践カリキュラム。



STEP 02

実装する

活用領域



観光DX（回遊・予約・情報発信）



農業データ活用（勤と経験の仕組み化）



空き家活用（マッチングプラットフォーム）



行政業務の効率化
（定型業務の自動化）



MECHANISM

現地雇用の仕組み（補助金に頼らない）

1

STEP 1

【まず雇用する】



現地で最低1名採用。
PCレンタル・EC運用等の
サブスク事業で
安定収益を確保。

2

STEP 2

【働きながら育てる】



実務と並行して
AI教育&開発を実施。

3

STEP 3

【チームで地域を担う】



育った人材が地域課題の
解決やサービス運営を担当。

START

まずは小さな成功事例から



フェーズ1：3ヶ月

目的

AI × 地域課題ワークショップ



期間

3ヶ月



人材育成

10名



町内DX実装

1件

いきなり大規模ではなく、小さな成功を1つ作ることから始めます。

OUR ROLE

一気通貫の伴走体制



教育設計

（カリキュラム設計・提供）



DXプロジェクト
伴走

（企画・開発・実装支援）



人材マッチング

（採用・定着支援）



外部企業・
事業化支援

（連携・資金・実証支援）



株式会社エイト

（AI人材育成 × 地域DX）

お問い合わせ

<https://8grp.co.jp/contact/>

「AI人材が育つ町」を、
共につくりませんか？